

第17回全日本女子ボクシング選手権大会

ひ る た み ず き
晝田瑞希

**悲願の
 初優勝**

12月20日から24日、長崎県長崎市で行われた第17回全日本女子ボクシング選手権大会にボクシング班から4名が参加し、フライ級で晝田瑞希陸士長が悲願の初優勝を飾り、並木月海陸士長が第3位の成果を取めた。

大会初戦から、右肩上がりに調子を上げてきた晝田士長。準決勝では、2018AIBA 女子ユース選手権大会銅メダリストの木下鈴花選手（米子南高）に、主導権を与えない圧巻の試合で勝利し、順当に決勝へ駒を進めた。

迎えた決勝。相手は、今年の福井国体決勝で完敗を喫した、強敵の河野沙捺選手（近畿大）。

第1ラウンドは、お互いのリードパンチが飛び交う中、徐々に河野選手のパンチがクリーンヒットし始めた。晝田劣勢で第1ラウンド終了。セコンド菊池コーチは、「このラウンドのポイントは取られている。フットワークを止めず、積極的に前へ出る！」と気合いを入れた。

続く第2ラウンド開始。河野選手が連打を繰り出し、主導権を奪いに前に出てきた。対する晝田は、軽快なステップからのストレート、フックで応戦し、引き下からず強気の姿勢をみせた。両者互角の戦いで、第2ラウンドが終了。セコンド菊池コーチは、「勝つために、次のラウンドは絶対取るぞ！」と更に発破をかけた。

そして最終第3ラウンド。お互いの激しい打ち合いが繰り返される中で、晝田の絶妙なフットワークからの効果的で鋭いパンチが炸裂。晝田は着実にポイントを重ね、試合終了のゴングが鳴った。

判定結果が待たれる緊張感の中、「勝者、赤コーナー晝田！」のアナウンスが流れた。判定3-2。気迫のこもった接戦をものにし、見事全日本初優勝を飾った。自衛隊入隊以来何度も第2位に甘んじていただけに、晝田の流す涙は、今までの熱い想いがこもった万感の涙だった。苦悩と人知れぬ努力が報われた瞬間だった。



笑顔でポーズをとる晝田士長



晝田士長を支えた強力なスタッフ陣と良きライバルたち

試合後、晝田は、「今回の決勝では、気持ちで負けず、絶対勝つことを意識していた。優勝を勝ち取ることができたのは、階級変更によって新たなライバルとなった小村3曹、切磋琢磨してきた並木士長の存在が大きい。そして試合で負けても諦めずに指導し、支えてくれたコーチ陣に感謝している。自分自身、まだまだ強くはない。自分に甘えることなく、これからも前へ進んでいきたい。」と今後の抱負を熱く語った。

総 合 成 績

フライ級

晝田 瑞希（岡山県出身 22才） 陸士長 優 勝
 並木 月海（千葉県出身 20才） 陸士長 第3位
 小村 つばさ（熊本県出身 22才） 3等陸曹 1勝1敗

フェザー級

住吉 さくら（岩手県出身 19才） 1等陸士 1 敗

